



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」

Ver.2-021 号

「良心」とは何か



『いま大学で勉強するということ』の第4章は「私立大学の存在意義—「良心」とは何か」です。「良心」についての記述は、他のキーワードと同様、紙面の都合もあってか、充分とは言えません。そこで、今号では、「良心」についての参考情報を追加、ご報告する。

***第4章「私立大学の存在意義—「良心」とは何か」におけるご二人の主な発言**

佐藤優氏

- ・同志社の良心教育について話すとき、キリスト教における「良心」というものを良く考えてほしい、と言っています。
- ・人間的に言うならば「良心」とは、悔い改めです。神様の前で悔い改めて反省する、それは同時に他者に対して悔い改めることなのです。

松岡学長

- ・同志社人は、社会に出て経験を積み、多くの知識を得て、ずっとそれらを問い続けながら、一生を終えるのではないか。例えば、「良心」とは何なのか。自分も「良心」は何かと一言で言えるかかという、言えません。でも、死ぬ瞬間に、それが何か、自分の中にポッと分かることができたなら幸せだなと、そんなことを思う時があります。

.....

「良心」の理解のために

1. 「良心学研究センター」の紹介

同志社大学には神学部の小原克博教授がセンター長を務められる「良心学研究センター」があり、活発な活動が為されています。その内容を HP から要約してご紹介します。

・目的

「本研究センターは、現代世界における「良心」を考察し、その応用可能性・実践可能性を探求することを通じて、学際的な研究領域として「良心学」を構築し、さらにその成果を国内外に発信し、新たな学術コミュニティを形成することを目的とする。」

・研究テーマ

- (1) 同志社教育にとって「良心」とは何か（基礎的・歴史的探求）
- (2) 「良心」は現代社会にどのように適用可能か（応用的・理論的探求）
- (3) 「良心」は日常生活や社会生活の中でどう活かされるべきか（実践的探求）

・還元

研究を深めるきっかけを作るため、また、研究成果を社会に還元するために 2015 年 7 月 3 日を皮切りに定期的に公開シンポジウムを開催し、30 回を超えている。

・発信

同志社大学の学生には、「複合領域科目「良心学」を 2014 年度の春学期から連続して授業している。卒業生等には、同志社大学広報 **One Purpose No.195**（7 月 1 日発行）で「同志社が目指す「良心教育」とは」という特集で発信。更に、2018 年 7 月、良心学研究センターの研究成果として『良心学入門』（岩波書店）を刊行している。

2. 「良心」とは

この情報は、「良心学研究センター」からの情報を中心にしています。センターの研究も日々進化しているので、最新のシンポジウムから情報を得るべきと考えて、2019 年 1 月 17 日（木）に今出川キャンパス 同志社礼拝堂で開催された公開シンポジウム「AI・ロボット時代における良心」>から情報を得ることにしました。まずは、そのレジュメから。

2-1 良心 (conscience) の基本概念

- ・ 良心 (conscience) の原義

conscience ← conscientia (コンスキエンティア、ラテン語)

= con (共に) + scire (知る)

その元になるのは σ υ ν ε ἰ δ ἦ σ ι ς (シュネイデーシス、ギリシア語)

= συν (共に) + εἶδω (知る、考える)

(参考) ドイツ語 Gewissen = ge (共に) + wissen (知る)

・ 誰と「共に知る」のか

- ① 自己の内面的な対話 (内なる他者との対話) 【個人的良心、自律的良心】
- ② 他者と「共に知る」 【社会的良心、他律的良心】
- ③ 神と「共に知る」 【信仰的良心、神律的良心】

☞ 同志社大学 良心学研究センター編『良心学入門』岩波書店、2018 年 (特に「総論」)

・ 何を「共に知る」のか 自己と世界 (社会・地球・宇宙)

2-2 良心の拡張

世界の観察。良心のコンテンツ (内容) を問うだけでなく、コンテキスト (文脈・背景) を問う。それが共通のプラットフォームにつながる。

自然 (生命・動物) — 人間 (個人・共同体) — 人工 (文化)

技術革新によって、自然と人工の区別が曖昧になってきている (自然と人工の非区別化)。たとえば、ヒトゲノム編集、BMI (Brain-machine Interface)、人工知能など。

2-3 現代科学に対する批判的視座——良心の強度・もろさ

技術のデュアル・ユース (民生利用と軍事利用)、共感と暴力 (戦争)、科学と狂気、社会ダーウィニズム (優生思想)、利己性と利他性、身体性と大地性 (地球環境)、宗教と科学

3. 良心というキーワード

上記シンポジウムでの小原克博先生のお話から

同志社にとって「良心」は建学以来、長い間、課題になっている。「良心」をめぐる議論は、長い歴史的蓄積があるが、主として哲学や宗教など人文社会系の学問で扱われてきた。しかし、現代という文脈の中では、自然科学も含め、様々な専門領域をつなぎ合わせる接着剤としての「良心」というキーワードを活用すべきである。そのためには、古典的な意味にとどまらず、積極的な概念拡張が必要となる。

学問は専門化・細分化する中で、相互のコミュニケーションをとることが難しくなっているが、「良心」を共通のキーワードとすることによって、新しい知の領域を共に切り開いていくことが可能となる。

新島襄は、良心という言葉を頻繁に使ってはいないが、良心が全身に満ちたような人物が生まれ出ることを願っていた。

良心学研究センターは、良心の探究の途上にあるが、現時点での研究成果を社会に還元したいという思いがあって、今回は AI・ロボットと良心の関係を問うシンポジウムを企画した。

当日の配付資料、動画は下記ページよりご覧いただけます。

<http://ryoshin.doshisha.ac.jp/jp/activity/20190117/>

*参考図書 → 『良心学入門』（岩波書店、2018年）

15人の先生方が<〇〇と良心>とご自身の専門分野と良心について書かれている。

おわりに

良心学研究センターのHPには、「良心」を考えるための素材がたくさんアップされていますので、読者のみなさんが、それらを利用しながら、日々の生活の中で良心を考え、良心の実践者となることを願っています。 ■